

# 運行開始当初の 様子を伝えた 広報 いけだ



1982（昭和57）年7月15日発行

8月からの「秘境の旅」周遊バスの運行開始を伝えた。同月の第64回全国高校野球選手権大会で池田高校野球部が全国制覇。山あいのまちは熱狂の渦に包まれ、明るい話題に満ちた1年だった。



▲今年の第一便を前にテープカット

1984（昭和59）年4月15日発行

この年の第1便出発前に阿波池田駅前で行われた。真鍋池田町長（写真右）と板東四国交通社長（左）（当時）がテープカットを行う様子。



1985（昭和60）年4月15日発行

「池田やまびこふるさと会」キャラバン隊がボンネットバスに乗り込み、大阪でPRを展開。池田高校の活躍もあり多くの注目を集めた。車体は現在と同じものだが、この時は「やまびこ号」だったことが分かる。

## ●ToTheLastRun

それはちょうど池田高校が第64回全国高校野球選手権大会で3466校の頂点に立ち全国制覇を果たした年。池田高校を応援するための貸切バスとして、甲子園球場へ沸きに沸く市民を運んだこともありました。また、観光ルートに「池高前」があり、車内からあの池高を観光できることも人気の秘密でした。

## まちの成長とともに

その車体はなんと55年前のもの。1966年製のいすゞBXD30です。当初は路線バスとして活躍していたこの車両ですが、いつしか箱型バスが主流となり、その丸みを帯びた味わいのある風体が珍しがられるようになりました。

そして、1982年8月から、「三好西部町村観光協議会（池田、山城、東西祖谷の各町村で組織）」（当時）の四国のへそキャンペーンとして観光バスの運行がスタートし、土、日、祝日には、全国から、また外国から訪れる観光客を乗せて秘境を巡る旅に誘いました。

# 39年間のありがとうを乗せて

定期観光バスの運行が開始したのは今から39年前。多くのひとに愛され、心に残る思い出を作ってきました。ボンネットバス「秘境の小僧小僧号」は、今年11月末、ラストランを迎えます。



## ボンネットバスが巡る 大歩危祖谷観光ルート

10:30	JR 阿波池田駅 ①
10:40	阿波池田バスターミナル
11:25~11:50	平家屋敷 ②
12:05~12:50	昼食
13:00~13:30	祖谷のかずら橋 ③
13:50~14:00	小便小僧 / 祖谷溪谷 ④
14:35~15:05	道の駅大歩危 ⑤
15:05~16:00	大歩危峡観光遊覧船
16:35	JR 阿波池田駅

今年11月、大歩危祖谷定期観光ボンネットバス「秘境の小僧小僧号」が引退します。1982年の運行開始から39年間、JR阿波池田駅から西祖谷のかずら橋、祖谷溪谷、大歩危小歩危のルートを、たくさんの観光客を乗せて走り続けたボンネットバス。それは、いつも三好のまちの歴史とともにありました。

本日は2020年末をもって、引退することとなりました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により観光客が激減し、十分に楽しんでもらえなかったのです。そのため1年延期し、今年ラストランを迎えることとなりました。そんな39年間を「広報いけだ」とともに、懐かしい記憶を振り返ります。



interview



原田 佳彦 さん  
四国交通（株）  
営業部 課長補佐

「ボンネットバスはバスの運転手でも最初から乗れるものではありません。

操作も全然違いますし、前のボンネットが出ている分、道幅の狭い祖谷溪谷を走るのは難しいです。」と語る原田さん。なんといってもパワステもついていませんから、運転手でも初めは何度も練習してから乗車するそうです。

写真撮影のために訪れた祖谷溪谷でも、急カーブが続く見通しの悪い山道を対向車をかわしながら、独特のエンジン音とともにガンガン走って行く姿が見られました。

原田さんは本文中の押しがけのエピソードを楽しく教えてくださいました。

interview



近藤 幸男 さん  
四国交通（株）取締役社長

「このバスは、一時期徳島バス（株）に所属していたんですが、また四国交通（株）に戻ってきたもの。古いだけあって内部の仕組みはとてもシンプルに作られています。現在のようにコンピュータ制御の複雑な作りだったらこんなに長期間、修理を繰り返しながら整備できなかったでしょう。」

「11月末をもって定期観光バスとしては引退しますが、今後は市民の皆さまに乗っていただくため、おおよそ月に一度、不定期に路線バスとして運行します。」いつ、どの路線を走るかは決まっていませんから、目の前に突然現れることがあるかもしれませんよ。お楽しみに。

今明かされる!

## ボンネットバスのカラーには 隠された意味があった!

ご存知でしたか?  
丸みを帯びた愛らしいボディに  
マッチする朗らかなカラーリングには  
こんな意味が込められています

四国山地をあらわしたみどり  
吉野川の水流をあらわしたあお  
四国平野の稲穂をあらわしたクリーム



お話を伺った四国交通（株）の皆さんと青空に映えるボンネットバス

## かつて、プラモデルが販売されました /

現行カラーで塗装されたボディ  
本物と同じロゴが施されている



(株) エルエス  
32分の1サイズ  
ボンネットバスシリーズ  
外箱には小便小僧や  
かざら橋、野球ボールが  
描かれている



押し掛けに協力してくれたお客さんは、もともと古いボンネットバスに興味があつてツアーに参加された方々です。こんなことがあつても「面白い、貴重な体験ができた」、「忘れられない思い出になった」と逆にこのアクシデントを楽しめる器の大きな方ばかり。とは言つてもさすがにこの事件が直接的なきっかけとなり、

「お客さんに迷惑をかけてはいけない」と、定期観光バスを引退することが惜しまれながら決定されました。定期観光バスとしては11月末をもって引退となりますが、今後は路線バスとして活躍することとなります。これからは、市民の皆さんとより一層近い距離でお目にかかれるでしょう。

## これからもずっと 市民に愛される存在

## 車両の整備にもひと苦労

お手数をおかけいたしますが、2ページ目に戻ってボンネットバスの写真を再度見ていただけませんか? 車体の側面に景色が写り込んでいるのが見えることでしょうか。5年ほど前に装いも新たに塗装され、今でも車体はピカピカにお手入れされています。これまでの55年のバス人生の中で5回の全塗装を施され、化粧直しをしてきました。とはいえ、なにぶん古い車両です。整備するにも既に部品はメーカーにも存在していません。ですから三好市内の架装業者に一から工作してもらっていました。架装とは、車台に積載する車体などの設備のこと。そのため、一度どこかが故障するとしばらくの間、運休を余儀なくされることもありました。そのような状態で運行していたボンネットバスに、とうとうある日、決定的な事件が起こったのです。

## エンジンがかからない!?

2019年11月、いつものようにバスタワーを走行し終盤を迎えた頃でした。大歩危で停車し、お客さんは一旦下車、バスも一休みです。さて、再度お客さんを乗せてエンジンをかけようとしたところ、なぜか一向にかかりません。どうもバッテリーの不具合があるようです。しかし、お客さんを定刻までに無事JR阿波池田駅まで送り届けなければなりません。そこでとられた緊急対応策とは、お客さん全員と、近くに居合わせた他のバスの運転手さんが総出で車体を後部から押し、その力でエンジンを始動させるというものでした。皆さんの協力を得てなんとか窮地を脱したのです。しかし、この不具合を修理するために2週間ほど運休することに。既に予約されていたお客さんには一人ひとり電話で、ボンネットバスには乗れなくなつたと伝えました。



← ボンネット内部  
やはりシンプルな作り



→ ベテラン運転手の森さんにボンネットを開けて見せてもらった



← 車内後方から前方を見る  
エアコンはないけど扇風機があり、補助席も完備

→ 運転席の眺め  
シンプルでありながら何の操作スイッチなのか分からないものがいっぱいある

